

## 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0170100812		
法人名	株式会社 ゆずり葉宮の森		
事業所名	グループホーム ゆずり葉宮の森(1階)		
所在地	札幌市中央区宮の森2条5丁目2番27号		
自己評価作成日	令和1年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0170100812-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100812-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和2年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

隣接している宮の森保育園と行事と一緒に行動以外にも日常的な交流があり、子供達と接する機会が多く設けられています。また、夏には納涼祭を開催し、地域の方々をお招きすることで交流を図る場にもなっています。ホームの付近には公園が点在しており、北海道神宮や円山公園があります。その他にも個別対応として中央市場への外食やショッピングへ出かける等外出に力を入れています。お花見や敬老祭等の季節の行事も多く企画されており、各ユニット同士の交流も盛んに行われています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は都心部にありながら閑静な住宅街に位置し、周辺は様々な公園など自然環境に優れ、事業所中庭では小鳥が立木で羽を休めています。併設の保育園や地域とは相互の行事で交流があり、さらに中学生の職場体験、実習生、ボランティアとの触れ合いもあります。今年度は開設以来、初めて百寿のお祝いをしています。職員は体操、カラオケ、書道、工作等で活動意欲を高める支援に努めています。事業所の三本柱である各ユニットの管理者は、職員の知識及び技術の統一や理念の共通認識を図ることに努め、介護技術のさらなる向上と利用者が終の棲家として安心して暮らし続けられる支援を目指しています。代表者は、地域資源をフル活用しながら運営やケアの充実に繋げる方向性を示しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	ユニット内に理念を掲示しており、実践につながるよう努力をしている。	法人理念に加え、事業所理念を事業所内に掲示して実践に努めています。管理者は、あらためてケアの道標である理念の再確認を行い、職員の意識統一へ向けて考慮しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。	利用者は、町内会行事の青空カーニバルや餅つき大会を楽しんでいます。隣接の保育園とは、相互の行事で行き来しています。中学生の職場体験や実習生、ボランティアを受け入れ、事業所の納涼祭には地域の方を招待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	宮の森保育園主催の夏祭り等の行事に参加したり、ホームで納涼祭を開催した際に地域の方々にも参加して頂くことで、認知症に対する理解を深めて頂くよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題を決め、出席して頂いた皆様と話し合いを行っている。	会議は定期的に行われ、町内会から民生委員の出席があり、地域の情報が伝えられています。利用者の状況を説明し、ユニット毎にヒヤリハットや事故の事例と改善策を報告する中で行政から意見を得ています。	家族来訪時に会議への参加要請を行っています。地域を含め幅広い分野への呼び掛けや、参加しやすい日時設定、議題の工夫等を行い、より活発な意見交換の場となるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携を取るよう努めている。	市の管理者連絡会に出席し、学びや情報を得ています。事故報告書は郵送し、行政からの情報依頼時はFAXやメールで応じています。困難事例の相談や実地指導、集団指導等で担当者から助言を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し定期的な話し合いを行っている。また積極的に研修へ参加し、そこで学んだものをケアに取り組んでいる。	指針を整備し、年6回の適正化委員会、外部講師による内部研修など年4回開催しています。センサー等の使用時はケアプランに反映し、常に身体状況の確認を行うなど、適切なケアになるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加者による発表や内部研修等で学び、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修に参加することで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置している。	毎月発行の「ゆずり葉だより」は、代表者から家族に語りかけるようなメッセージや、行事報告とその時の写真、翌月の行事予定等を掲載して家族に事業所の情報を届けています。家族の要望からエレベーターを設置しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、意見提案を聞く機会を設けている。	職員は行事など各委員会に所属して運営に係わると共に自らの資質の向上に繋がっています。代表者や管理者は、職員と情報を共有する中で意見を傾聴しています。希望休や外部研修参加等の要望にも応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の調整など、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加、内部研修でのグループワーク等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内グループホーム勉強会に参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中ででの楽しみを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有できるよう、常にコミュニケーションをとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	要望があった場合には利用者の自宅まで一緒に訪ね、満足感に繋がっています。美容室、外泊、墓参りは家族が支援しています。知人の来訪は歓迎し、職員は、遠方から知人が訪ねてきた利用者の部屋から笑い声が聞こえ、利用者の表情の豊かになっている様子を感じ取り、関係を継続できる支援を心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもフォローできる体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努め、本人本位の検討を行っている。	利用者の根底にある思いの把握は、関わりの中での表情やふとした言葉、ライフスタイル、生活歴等から推察しています。内容によってはケアプランに組み入れるなど、満足感が得られるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時は、利用者や家族から生活への要望を聞き取ったり推し量っています。モニタリング、アセスメントを行い、医療従事者の意見を踏まえ、会議で適切な支援目標になるよう検討が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録を行っており、訴えを詳細に記録し、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との行事や外出時にご本人の力を発揮できるよう支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援を行っている。	入居時に受診先を傾聴しています。協力医療機関による訪問診療の体制を整備し、専門医への通院は基本的に家族対応としています。2名の看護職員により迅速な対応が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族を含めた主治医との面談、話し合いを行い、本人、ご家族との方針の共有、支援に努めている。	入居時に重度化や看取りに対する指針を説明し、同意を得ています。利用者や家族が望む終末期を支援するために、知識や技術の習得、医療従事者や家族と情報を共有し、チームケアで臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて心肺蘇生法やAEDの使用方法的な訓練を行い、各々身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して全職員が対応できるよう努めている。	年2回、災害を含む日中・夜間想定での避難訓練を行っています。避難場所の確認や飲食料、備品も随時用意しています。救急救命講習は、一部の職員については今後受講予定です。	危険区域外でもあらゆる災害やケア場面を想定しての図上訓練・実践的訓練が望まれます。消防署の指導や地域との協力体制の強化、全職員が、さらに的確な避難誘導が行える取り組みを計画していますのでその取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	職員は利用者の全体像を把握し、その情報を共有しています。接遇研修等で適切なケアのあり方を学び、利用者を尊重し、思いに応えるケアに取り組んでいます。個人的な事はインシヤルで伝達し、言葉かけにも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり、都合を優先させてしまうことがあるが、ご本人の希望にそって生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んで頂いたり、その時に応じて化粧をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事をして頂けるよう、援助を行っている。	食材とレシピは業者から届きますが、時には利用者の要望も取り入れ一緒に買い物をし、ちゃんちゃん焼きや焼肉、ラーメン、中華等を作り、プランターのトマトやナスも食卓に上がっています。誕生日は希望により外食にしたり、散歩の途中に昼食やおやつを食べることもあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を使用し、1日を通した水分量、食事摂取量を把握し、支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に応じたケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄間隔や習慣を把握し、支援を行っている。	一人ひとりの排泄状態を把握し、できない部分を支援しています。自力排泄に加え、声かけや誘導を行いトイレでの排泄に繋げています。衛生用品は家族からの相談や利用者の要望を取り入れ使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便間隔を把握し、積極的な乳製品の提供等、個々に応じた取り組みを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援ができるよう努めている。	午後の時間帯で週2～3回の入浴支援を行っています。湯船で入浴剤の色や香りを楽しんだり、足湯をしながらのシャワー浴をする中で昔話や本音が聞かれ、家族に伝えたりケアプランに反映しています。入浴後は、「気持ち良かった」の声が聞かれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版を使用し、スタッフ一人一人が服薬に関して理解が深まるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に見合った支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力しながら努めている。	周辺を散歩したり、地域や保育園の行事に参加、中庭の花壇を眺め、買い物帰りに公園でアイスを食べるなど、日常的に外気に触れています。動物園、大通公園、花見や神宮参拝、外食など、日常に変化を付けています。家族との外出も行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様にのみ支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫をし居心地よく過ごせるようにしている。	共用空間は温湿度や採光等に配慮があり、居心地良い環境を整えています。和室の他に食事と寛ぎのコーナーがあり、生活にメリハリを付けています。居間や階段には利用者の作品である貼り絵や塗り絵、習字、行事写真、季節毎の装飾品等が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に仕切り等がないため、独りになることは難しいが、入居者が思い思いに過ごせるよう支援を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂く等して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	6帖間の居室には、クローゼットが設置されています。調度品や家族写真、飾り物が動線に配慮して置かれ、利用者が安心して生活できる環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう支援をしている。		